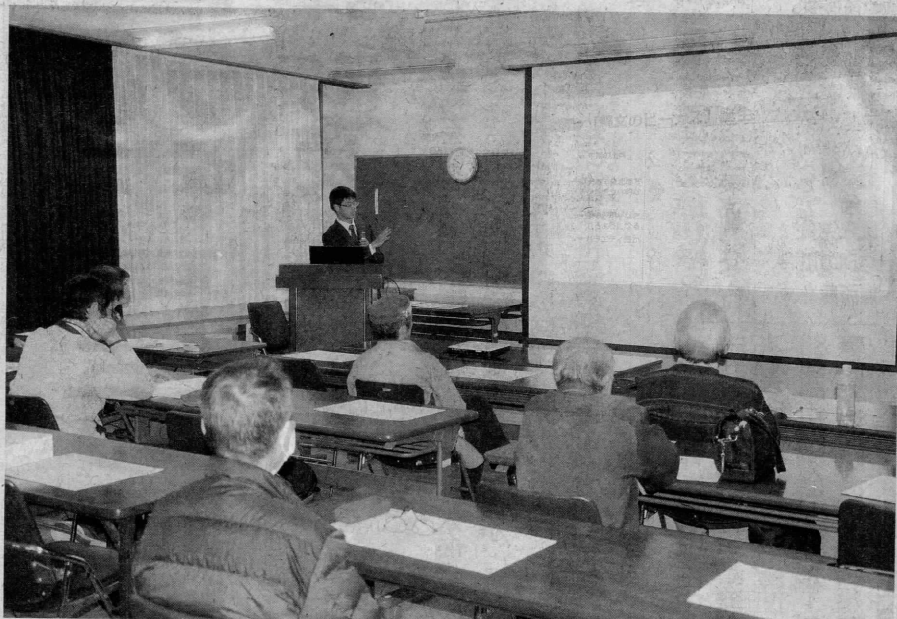


# 国宝土偶の本質に迫る

## 中央公民館が縄文文化講座

茅野

茅野市中央公民館は12、19の2日間、縄文文化講座を同館



茅野市から出土した2体の国宝土偶「縄文のビーナス」と「仮面の女神」の役割などについて、市教育委員会文化財課の吉村璃来さんから話を聞いた初日の講座

で開いている。「茅野市が誇る」をテーマに、市教育委員会文化財課の若手職員2人が講演。27人が受講し、縄文人の暮らしぶりや土偶に込められた思いなどを学んでいる。

初日の講師は吉村璃来さん。「土偶の埋納」と題して話した。

「縄文のビーナス」は粘土のつなぎ方や焼き方などに高い制作技術が必要だったと紹介。県内外の遺跡から「縄文のビーナス」をモデルにしたとみられる「コビー土偶」が数多く見つかったことから、作られてから長きにわたって祭りに使われ、遠方から訪れた人も見ることができた可能性があり、その後、集落の中央近くの墓域に埋納されたと考えられていると説明した。

「仮面の女神」は縄文後期前半に作られ、寒冷化で生活環境が悪化するとともに、中部高地の遺跡が急激に減少していく時期と重なったと解説した。墓と考えられる土坑に埋納されており、各地では葬

て集落の結束を強める役割を果たしたことが想像されるとし、「その最たるものが『仮面の女神』の埋納だったので

2日目は堀川洸太朗さんが講師を務める。「民族誌と縄文文化研究」の内容で講演する。